

まちづくりの構想を提出



これからの当別町のまちづくりの基本となる構想「北の住まいるタウン構想」と「当別町生涯活躍のまちづくり基本構想（当別町版 CCRC）」が、それぞれの協議会を代表する北海道医療大学の黒澤副学長から町長に手渡されました。今後はこれらの構想を踏まえ、当別町の人口増加と安心して暮らせるまちづくりを目指して事業が展開されます。（4月5日）

医療大生の町内転入を促進



当別町では、北海道医療大学の新生入学生が転入の手続きをスムーズにできるようにと「転入届出臨時受付窓口」を大学構内で初めて開設しました。町と医療大はさまざまな連携事業を行っており、この事業はその取り組みのひとつとして「町への住民票異動」を推進するもの。町内へ住民票を異動するメリットは、町が関係する選挙区での選挙の投票が可能になる、万が一の災害時に適切な安否確認ができることなどがあり、来年度以降も人口増を目指した取り組みを進めていきます。

（4月6日）

交通事故ゼロを目指して



交通事故ゼロを目指し、今年も「セーフティーコール」が国道275号線で実施されました。町内の各事業所や団体から約140人が参加し、少し肌寒い中スピードダウンの旗をなびかせ、通行車両へスピードダウンを呼びかけました。町内での昨年の交通事故件数は、一昨年の約半数に減少し、交通事故による死者はありませんでした。行楽シーズンに入るこれからの季節は車のスピードが早くなりがちですが、子どもや高齢者、自転車の飛び出しにも注意しながら、安全運転を心がけましょう。

（4月6日）



無事故無違反歴 20 年以上



当別町交通安全推進委員会主催による「交通安全特別優良運転者表彰式」が行われ、無事故無違反を 20 年以上継続する優良ドライバーが表彰されました。今回の受賞者は桑原敏子さん、工藤勝男さん、馬堀伊三次さん、西田司さんの 4 人。工藤勝男さんは「これまでも事故は起こしたことがないが、新学期を迎えたこの時期は、毎年子どもたちの飛び出しに注意するなど安全運転を心がけている」とお話ししてくださいました。受賞者のみなさんおめでとうございます。

(4 月 13 日)

高齢者の住まいを考える



当別町介護者と共に歩む会の主催で「住み慣れた地域で暮らし続けるために」をテーマに講演会が開催されました。講師は当別町地域包括支援センターに勤務する木村晃子さん。講演では、「3 世代が一緒に生活した時代から、高齢者の単身または夫婦のみの世帯が多い時代へと移り変わる中で、老人ホームやサービス付き高齢者住宅などそれぞれの特徴を理解し、どこを生活の場とするのかを考えて欲しい。また、生活の悩みはいつでも地域包括支援センターに相談して欲しい」と話していました。


(4 月 18 日)



住宅用火災警報器は、火災をいち早く発見し、逃げ遅れによる死者を出さない、火災による被害を最小限度におさえるための切り札です。

住宅用火災警報器を設置しましょう！！

毎月 15 日は「防火の日」
火の元を点検しましょう！



(お問い合わせ先)
当別消防署予防課予防係 ☎ 23-2537

廣 告

廣 告

廣 告